

2020年度第1四半期 決算報告書



プレスリリース

2020年5月5日、パリ発

2020年度第1四半期: 未曾有の医療危機の打撃を受けたが、事業活動は高水準

四半期末に厳しいマーケットショックに見舞われたものの、営業収益は底堅い

営業収益：前年同期比**-2.3%**

医療危機により**2020年度第1四半期**に生じた一時的影響（**-5億6,800万ユーロ¹⁾**を除くと**+2.8%**

営業費用は、計画通り大幅低減

営業費用：前年同期比**-3.5%**

営業総利益は増加

営業総利益：前年同期比**+1.3%**

医療危機の拡大に伴い、リスク費用が増加

67 bp²⁾

このうち、医療危機の影響分は**23 bp**（**5億200万ユーロ**）

医療危機による一時的影響¹⁾を除くと、純利益は2020年度の目標通り高水準

株主帰属純利益：**12億8,200万ユーロ**（前年同期比**-33.2%**）

医療危機による厳しい影響³⁾を除くと**+6.7%**

極めて盤石なバランスシート

普通株式等 **TIER 1 比率：12.0%**

1. 欧州当局による2019年配当支払抑制勧告の一時的影響（-1億8,400万ユーロ。この額の中には企業が新たな経済環境下で自由に決定する配当抑制の影響は含まれていない）、および、相場下落が保険部門の営業収益に及ぼした会計上の影響（-3億8,400万ユーロ）。2. リスク費用+顧客向け融資期首残高（単位：ベースポイント）。3. 影響の内容は、脚注1および2020年度第1四半期のリスク費用に対する影響（5億200万ユーロ）。



2020年5月4日、BNPパリバの取締役会が開催され、ジャン・ルミエール会長が議長を務めるなか、当グループの2020年度第1四半期の業績が検討されました。

今回の決算を踏まえ、ジャン＝ローラン・ボナフェ CEO（最高経営責任者）は取締役会の最後に以下のよう
に述べました。

「医療危機の発生に直面し、当グループのチームは世界中で結集し、経済面とファイナンス面の機能に貢献
しています。我々の関心事は、フル動員の従業員を守り、バンキングサービスを確実に提供すること、ソリ
ューションを直ちに実行し、法人/機関投資家/個人のお客様の資金調達をサポートすること、および、我々
がプレゼンスを有する全ての地域において緊急寄付計画を発動し、病院や弱者支援組織を支えることです。

BNPパリバの2020年度第1四半期の業績は、高水準の事業活動に支えられ、2020年度の目標通り進捗して
いましたが、決算は医療危機の過酷さの影響を期末に被りました。このショックにもかかわらず営業収益や
純利益はかなり底堅く、当グループの多角的かつ統合的なビジネスモデルの盤石さを裏付けています。

BNPパリバの全チームに対し、その顧客対応・社会支援提供に向けたたゆまぬコミットメントに対し、感謝
の意を表します。今回の危機が経済に及ぼす影響の軽減や将来への備えに向けた取り組みを今後も継続して
まいりましょう」

BNPパリバは医療危機に直ちに対応

世界中が新型コロナ蔓延の打撃を受け、多くの国々が国民の保護・ウイルス拡散の鈍化のため公衆衛生措
置を講じています。経済的・社会的影響は甚大な規模に上っています。

BNPパリバもこの危機に見舞われましたが、多角的で強靱なビジネスモデルの恩恵を受けています。財務構
造は盤石で（2019年12月末現在、普通株式等 Tier 1 比率は 12.1%、即時利用可能な余剰資金は 3,090 億ユ
ーロ）、リスクと営業収益源を構造的に分散し、厳格なリスク管理を行っています。このビジネスモデルの
中核にはお客様との長期的関係があり、パフォーマンスが高いデジタルソリューションの活用を融合した取
り組みを行っています。

BNPパリバは、盤石な立ち位置を基盤に本来の強みとチームを結集し、こうした厳しい局面でも法人/機関
投資家/個人のお客様をご支援してまいりました。

このため、当グループは、ごく短期間に、従業員の健康を守る医療対策の実行、経済の機能継続に不可欠な
各種サービスの提供、IT ネットワーク機能の拡充、サイバーセキュリティリソースのアップグレードを行っ
ています。当グループ各社と従業員はこぞって全地域で結集し、経済主体や市民社会の支援に必要な具体的
ソリューションを推進し、迅速に配備しています。

また、当グループは国際協調的な大規模支援機構に対するコミットメントを具体化し、グローバルな緊急寄
付計画（病院、弱者、若年層に対する 5,000 万ユーロ以上の寄付）や投資計画（中型企業、中小企業、医療
セクターに対する 1 億ユーロ以上の支援）に携わっています。

*
* *



第1四半期の事業活動は高水準だったものの未曾有の医療危機が影響

医療危機はマクロ経済見通しに多大な影響を及ぼし、金融市場に大きな衝撃をもたらしています。BNPパリバの当四半期の業績は2020年度の目標通りに進捗していましたが、医療危機に伴う展開が主に3つの顕著な悪影響を招きました。1つはリスク費用に5億200万ユーロのマイナスの影響が生じたこと（主に予想損失の事前引当）、他の2つは営業収益に対する一時的影響で、合計5億6,800万ユーロ押し下げる要因となりました。後者の2つの影響とは、(1)欧州当局が2019年配当の支払抑制勧告を出し、グローバルマーケット部門の株式・プライムサービス業務の営業収益を1億8,400万ユーロ¹押し下げたこと、(2)保険部門の特定のポートフォリオが2020年3月末の時価評価により、バリュエーションにマイナス3億8,400万ユーロの影響が生じたこと（相場が回復した場合にはプラスに転じる可能性がある）です。

これらを受けて、当グループの当四半期の営業収益は108億8,800万ユーロとなり、前年同期比2.3%の減収でした。なお、上記の2つの一時的影響を除くと前年同期比2.8%の増収でした。

事業部門の営業収益は前年同期比3.1%の減収²でした。これを部門別にみると、国内市場部門³では、長引く低金利環境がユーロ圏のリテールバンキング支店網に影響を及ぼし、専門的金融業務の継続的な伸びによる増収効果では十分に相殺できず、1.2%の減収となりました。国際金融サービス部門では、パーソナル・ファイナンス、バンクウェスト、欧州・地中海沿岸諸国部門は増収だったものの、保険部門の営業収益が四半期末の相場急落により会計上の影響を被り、5.4%の減収⁴でした。ホールセールバンキング部門（CIB）では、FICC、コーポレートバンキング、セキュリティーズ・サービス部門は極めて好調でしたが、グローバルマーケット部門の株式・プライムサービス業務で四半期末に生じた異例のショックの影響により相殺され、1.9%の減収⁵となりました。

営業費用は、グループ全体で81億5,700万ユーロと前年同期比3.5%の大幅減を果たしました。当四半期の営業費用には、一時項目として、事業再編費用⁶と事業適応費用⁷（4,500万ユーロ）、および、IT強化費用（3,400万ユーロ）が合計7,900万ユーロ含まれています（前年同期は3,800万ユーロ）。2020年度事業計画通り、一時項目の事業改編費用はゼロでした（前年同期は1億6,800万ユーロ）。

当四半期の営業費用には、国際財務報告基準解釈指針委員会（IFRIC）第21号「賦課金」（以下、「IFRIC 21」）の適用により計上された11億7,200万ユーロが含まれています（2019年度第1四半期は11億3,900万ユーロを計上）。これは2020年度に納付する税金・拠出金（特に単一破綻処理基金への拠出金を含む）のほぼ全額に相当します。IFRIC 21に基づく「賦課金」の影響を除くと、当四半期の営業費用は前年同期比4.4%減でした。

事業部門の当四半期の営業費用は前年同期比0.1%減少⁸しました。部門別にみると、国内市場部門では前年同期比0.5%減⁹でした。リテールバンキング支店網でのコスト削減¹⁰（-1.5%）に加え、専門的金融業務の事業開発でコスト増を抑制したことが奏功しました。IFRIC 21に基づく「賦課金」の影響を除くと、1.1ポイントの正のジョーズ効果が生み出されました。

¹ 企業が新たな経済環境下で自由に決定する配当抑制の影響は含まれていない

² 医療危機の一時的影響を除くと+2.0%

³ 国内市場部門のプライベート・バンキングの100%を含む（PEL/CELの影響を除く）

⁴ 医療危機が保険部門の営業収益に及ぼす一時的な会計上の影響を除くと+3.6%

⁵ 欧州当局による2019年配当支払抑制勧告の一時的影響（医療危機の影響）を除くと+4.3%

⁶ 特にRaiffeisen Bank Polskaの統合および特定の事業（とりわけBNP Paribas Suisse）の中止・再編に関わる事業再編費用

⁷ 特にウェルス・マネジメント業務、バンクウェスト、ホールセールバンキング部門（CIB）に関する適応策

⁸ IFRIC 21に基づく「賦課金」の影響を除くと-1.4%

⁹ IFRIC 21に基づく「賦課金」の影響を除くと-2.3%

¹⁰ フランス国内リテールバンキング、BNLバンカ・コメルシアレ（BNL bc）、ベルギー国内リテールバンキング

国際金融サービス部門の当四半期の営業費用は事業開発費が負担となり前年同期比 2.9%増加¹しましたが、CIB では特にコスト節減計画の継続が奏功し前年同期比 2.8%減少²しました。

これらを受けて、グループ全体の営業総利益は 27 億 3,100 万ユーロとなり、前年同期比 1.3%の増益でした。

リスク費用は、14 億 2,600 万ユーロとなり、前年同期に比べて 6 億 5,700 万ユーロの増加、顧客向け融資残高の 67bp 相当でした。医療危機が当四半期のリスク費用に及ぼした影響は 5 億 200 万ユーロで、顧客向け融資残高の 23bp 相当でした。医療危機の影響を事業部門別にみると、国内市場部門が 4,900 万ユーロ、国際金融サービス部門が 2 億 2,000 万ユーロ、CIB が 2 億 2,500 万ユーロ、コーポレート・センターが 700 万ユーロです。この影響はマクロ経済見通しの変化を反映しています（複数のシナリオに基づき、医療危機以前の設定に準じています）。また、この影響の中には、危機がクレジット/カウンターパーティリスクに作用するダイナミクスの独自の特徴が含まれており、特にロックダウン（都市封鎖）措置が経済活動に及ぼす影響、政府の支援措置や当局の決定の効果も組み込まれています。加えて、コロナ以前のセクター構成の影響（景気に敏感なホテル、観光、娯楽、食料品以外の小売業（家具・電子商取引を除く）、輸送・物流、石油・ガス等のセクターの見直しに基づく）も含まれています。

営業利益は、グループ全体で 13 億 500 万ユーロとなり、前年同期比 32.2%の減益でした。

営業外項目は、4 億 9,000 万ユーロの利益となり、前年同期の 7 億 5,700 万ユーロの利益を下回りました。当四半期の営業外項目には、建物 2 物件の売却による譲渡益（+3 億 8,100 万ユーロ）が反映されています。ちなみに、前年同期の営業外項目には、一時項目として、インドの SBI Life 株 14.3%売却による譲渡益（+8 億 3,800 万ユーロ）、のれんの減損損失（-3 億 1,800 万ユーロ）が含まれていました。

税引前利益は、グループ全体で 17 億 9,500 万ユーロ（前年同期は 26 億 8,300 万ユーロ）、前年同期比 33.1%の減益でした。

以上から、グループ全体の当四半期の株主帰属純利益は 12 億 8,200 万ユーロとなり、前年同期比 33.2%の減益でした。なお、一時項目による影響および IFRIC 21 に基づく「賦課金」の影響を除くと 20 億 9,300 万ユーロとなり、前年同期比 18.4%の減少です。医療危機の 3 つの影響³を調整すると、グループ全体の純利益は 20 億 4,700 万ユーロでした（前年同期比 6.7%増）。

有形自己資本利益率（ROTE）は 8.0%となり、医療危機が当四半期に招いた未曾有の環境による特有の影響を反映しました。

普通株式等 Tier 1 比率は、2020 年 3 月末現在 12.0%で、特に医療危機の影響が作用しました。レバレッジ比率⁴は 3.9%でした。グループの即時利用可能な余剰資金は 3,390 億ユーロに上っており、これは短期資金調達との関係で 1 年超の余裕資金があることを意味します。

1 株当たり有形純資産額⁵は、2020 年 3 月末現在で 69.7 ユーロに達し、2008 年 12 月末からの年平均成長率は 7.2%に相当し、当グループが景気局面を通して継続的に企業価値を創造する能力を有していることを証明しています。当グループの 2020 年 3 月末の自己資本は最大分配可能額（MDA）150 億ユーロ⁶を大きく上回っています。

*
* *

¹ IFRIC 21 に基づく「賦課金」の影響を除くと+2.2%

² IFRIC 21 に基づく「賦課金」の影響を除くと-4.7%

³ 医療危機が当四半期に及ぼした 3 つの影響とは、リスク費用に対するインパクト（-5 億 200 万ユーロ）、欧州当局による 2019 年配当支払抑制勧告の一時的インパクト（-1 億 8,400 万ユーロ。この額の中には企業が新たな経済環境下で自由に決定する配当抑制の影響は含まれていない）、相場下落が保険部門の営業収益に及ぼした一時的な会計上のインパクト（-3 億 8,400 万ユーロ）。

⁴ 2014 年 10 月 10 日付けの欧州委員会（EC）委任法令に基づき算定された比率

⁵ 再評価後

⁶ 資本要求指令 4（CRD4）第 141 条で定義



リテールバンキング&サービス事業

国内市場部門

国内市場部門の営業活動は当四半期も拍車がかかりました。融資残高は前年同期比 3.5%増え、リテールバンキング業務（特にフランスとベルギー）および専門的金融業務（アルバル、リーシング・ソリューションズ）で貸出が順調に伸びました。預金残高は前年同期比 7.6%増でした。プライベート・バンキング業務では高水準の資金純流入がありました（25 億ユーロ）。個人投資家部門では、ドイツの Consorsbank で新規顧客が前年同期比 3 倍近くに増え、取引注文数は 2 倍近くに拡大しました。

国内市場部門は、医療危機下にあるお客様の支援のため、迅速に力強く結集しました。これにより、3 月末時点で支店の 90%で稼働を続け、当局の健康面の勧告を確実に守れるよう特別措置を講じつつ、不可欠なサービスの継続性を確保しました。積極的な取り組みにより、お客様が危機に対処できるよう支援しています。政府の支援措置（政府保証融資等）の立ち上げは迅速で、当グループが医療危機当初から機関投資家/法人顧客向けに既に講じていた対応を補完しました。グループ各社は政府保証融資に直ちに備え、政府の支援措置の実現を様々な国で開始しました。また、デジタルツールの貢献が伸びつつあります。モバイルアプリをアクティブに使用する顧客¹は前年同期比で 31%増加し（530 万人へ）、モバイルアプリへの接続回数は 1 日当たり 340 万回以上に上っています。

営業収益²は、当四半期に 39 億 1,300 万ユーロとなり、前年同期比 1.2%減でした。これにはリテールバンキング業務を取り巻く低金利環境の継続が影響しており、融資額・手数料収入の伸びや専門的金融業務（特にドイツの Consorsbank）の堅調な伸びによる増収効果は打ち消しとなりました。

営業費用²は、当四半期に 29 億 7,000 万ユーロとなり、前年同期比横ばいでした（-0.5%）。IFRIC 21 に基づく「賦課金」の影響を除くと、前年同期比 2.3%の減少です。営業費用はリテールバンキング業務³では減少しましたが（-3.8%）、専門的金融業務では事業の伸びに伴って増加しました。IFRIC 21 に基づく「賦課金」の影響を除くと、国内市場部門は正のジョーズ効果を生み出しました。

営業総利益²は、当四半期に 9 億 4,300 万ユーロとなり、前年同期比 3.5%の減少でした。

リスク費用²は、当四半期は合計 3 億 1,300 万ユーロでした（前年同期は 3 億 700 万ユーロ）。医療危機により当四半期に生じた影響は国内市場部門では 4,900 万ユーロでした。

以上から、国内プライベート・バンキング業務³の純利益の 3 分の 1 をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、国内市場部門の税引前利益は当四半期に 5 億 7,400 万ユーロとなり⁴、前年同期比 5.5%の減益となりました。医療危機が当四半期のリスク費用に及ぼした影響（4,900 万ユーロ）を除くと、前年同期比 2.6%の増益です。

¹ モバイルアプリに月 1 回以上接続した顧客（2020 年度第 1 四半期の平均）。範囲は国内市場部門のリテールバンキング支店またはデジタルバンクの個人顧客、法人顧客、プライベート・バンキング顧客（ドイツ、オーストリア、Nickel を含む）。

² フランス（PEL/CEL の影響を除く）、イタリア、ベルギーおよびルクセンブルクの国内プライベート・バンキングの 100%を含む

³ フランス国内リテールバンキング、BNL バンカ・コメルシアレ（BNL bc）、ベルギー国内リテールバンキング

⁴ PEL/CEL の影響（当四半期は-1,300 万ユーロ。前年同期は+200 万ユーロ）を除く



フランス国内リテールバンキング (FRB)

FRB は医療危機に即応し、個人/機関投資家/法人顧客が公衆衛生危機に対処できるよう支援する態勢を迅速に整えました。2020年3月末時点で支店の90%近くで稼働を続けつつ、従業員の安全を守り、かつ、重要な使命を確実に遂行できるよう適切な措置を講じました。プライベート・バンキングのお客様に積極的に働き掛けた結果、その予約数は25%増を記録しています。政府の施策への対応に加え、キャッシュマネジメント業務や融資管理業務のソリューションも迅速に手配しました。政府保証融資には44,000件近い申し込みがあり（毎日約2,000件の新規申請）、総額約114億ユーロに上りました¹。

FRBの事業活動は拍車がかかりました。融資残高は顧客セグメント全体（特に法人向け）の貸出の順調な伸びが寄与し、前年同期比5.0%増加し、利鞘も高水準を維持しました。預金残高は前年同期比8.3%増でした。プライベート・バンキング業務では12億ユーロの資金純流入があり、オンラインマーケットの取引数²が急増しました（当四半期の取引全体の66%を占め、前年同期比46%増）。

営業収益³は、当四半期は15億2,400万ユーロとなり、前年同期比4.4%の減収でした。純利息収入³は前年同期の比較水準の高さや低金利環境の影響により9.8%減でした。手数料収入³は前年同期比2.8%増で、金融手数料やキャッシュマネジメント手数料の急増が貢献しました。

営業費用³は、コスト最適化策が奏功し、11億6,600万ユーロとなり、前年同期比1.6%減少しました。IFRIC 21に基づく「賦課金」の影響を除くと前年同期比4.1%減でした。

これらを受けて、当四半期の営業総利益³は3億5,800万ユーロとなり、前年同期と比べて12.5%減でした。

リスク費用³は、当四半期は1億100万ユーロと前年同期から2,900万ユーロ増加し（医療危機の影響を考慮後）、顧客向け融資残高の21bp相当でした。

以上から、フランス国内プライベート・バンキング業務の純利益の3分の1をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、FRBの税引前利益⁴は当四半期に2億2,200万ユーロとなり、前年同期と比べて27.0%の減益でした。特にリスク費用の増加が響きました。

BNL バンカ・コメルシアーレ (BNL bc)

当四半期は医療危機に見舞われましたが、BNL bcは極めて迅速に行動を起こしました。政府の施策への対応に加え、業務継続の体制を整え（支店の約90%の稼働を維持）、お客様の支援を行いました。例えば、法人顧客に対する6カ月の支払猶予、住宅ローン契約に対する3通りの返済提案などです。

厳しい環境にもかかわらず、BNL bcの事業活動は活発化しました。預金残高は前年同期比10.9%増でした。オフバランス貯蓄商品は、貯蓄型生命保険が増加（前年同期比+3.1%）したものの、株式市場のバリュエーション低下を受けてミューチュアルファンドの残高価値が低下し、2019年12月末比で6.4%減少しました。

¹ 2020年4月30日現在。

² 取引は有価証券の直接保有やミューチュアルファンドを通じた間接保有を含む

³ フランス国内プライベート・バンキングの100%を含む（PEL/CELの影響を除く）

⁴ PEL/CELの影響（当四半期は-1,300万ユーロ。前年同期は+200万ユーロ）を除く



融資残高は前年同期比 4.3%減少¹しましたが、不良債権を除くとほぼ横ばいでした。BNL bc は法人顧客の市場シェアを高め続けており、そのシェアは過去 4 年間に 0.6 ポイント上昇し、5.8%に達しています²。

営業収益³は、当四半期は 6 億 5,900 万ユーロとなり、前年同期比 2.5%減でした。純利息収入¹は、低金利環境の影響、および、より有利なリスクプロファイルを伴う顧客へのシフトにより、前年同期比 4.0%減少しました。手数料収入¹については、主にプライベート・バンキング業務の手数料が増加しましたが、前年同期比 0.1%の減収でした。

営業費用³は、当四半期は 4 億 6,500 万ユーロと前年同期比 1.2%減少しました。この費用減は、コスト削減策や事業適応策（イタリアの年金改革「クオータ 100」を活用した早期退職制度）の効果を反映しています。

これらを受けて、営業総利益³は当四半期に 1 億 9,400 万ユーロとなり、前年同期比 5.5%減少しました。

リスク費用³は 1 億 2,000 万ユーロとなり、医療危機の影響にもかかわらず、前年同期と比べて改善傾向が続き（2019 年に不良債権ポートフォリオを売却した影響により前年同期比 27%減）。当四半期のリスク費用は顧客向け融資残高の 64bp 相当でした。

以上から、イタリア国内プライベート・バンキング業務の純利益の 3 分の 1 をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、BNL bc の税引前利益は当四半期に 6,400 万ユーロに上り、前年同期比 113.5%増の大幅増を果たしました。

ベルギー国内リテールバンキング (BRB)

BRB は医療危機への対応に向けて力強く結集し、お客様に積極的な支援を提供しています。このため支店の 99% で稼働を続けており、当局の健康面の勧告を確実に守れるよう適切な手配も行っています。加えて、BRB では顧客支援対策を全セグメントで講じており、特に既存融資の返済計画の調整を行っています（2020 年 4 月 24 日現在、74,000 件の調整を実施）。

BRB は当四半期を通して高水準の事業活動を達成しました。融資残高は住宅ローンと法人向け貸出の高い伸びが寄与し、前年同期比 5.0%増加しました。預金残高は前年同期比 5.4%の増加でした。オフバランス貯蓄商品は、株式市場のバリュエーション低下に伴い、2019 年 12 月末比で 8.2%減少しました。

営業収益⁴は、当四半期に 8 億 8,500 万ユーロとなり、前年同期比 3.3%の減収でした。純利息収入⁴は、前年同期の比較水準の高さに加え、低金利環境のマイナス影響を融資の伸びによるプラス効果では補い切れず、前年同期比 9.2%減少しました。手数料収入⁴は、融資関係手数料や金融手数料が寄与し、前年同期比 15.2%の増収でした。

営業費用⁴は、コスト削減策が奏功し、当四半期は 8 億 3,000 万ユーロと前年同期比から 1.6%減少しました。IFRIC 21 に基づく「賦課金」の影響を除くと営業費用は 5%減で、1.7 ポイントの正のジョーズ効果を生み出します。

これらを受けて、営業総利益⁴は当四半期に 5,500 万ユーロとなり、前年同期に比べて 23.3%減少しました。

リスク費用⁴は、当四半期は 5,400 万ユーロで（前年同期は 3,400 万ユーロ）、顧客向け融資残高の 18bp 相当でした。費用増の要因は医療危機関連でした。

以上から、ベルギー国内プライベート・バンキング業務の純利益の 3 分の 1 をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、BRB の税引前損益は当四半期に 400 万ユーロの損失となりました。一方、2019 年度第 1 四半期の税引前損益は 2,100 万ユーロの利益で、特に IFRIC 21 に基づく「賦課金」の影響が寄与しました。当四半期の税引前損益から IFRIC 21 に基づく「賦課金」の影響を除くと、前年同期比 3.8%の減益でした。

¹ 融資残高は 2019 年度第 4 四半期比で 3.2%減（平残）と 0.6%減（末残）

² 出所：イタリア銀行協会

³ イタリア国内プライベート・バンキングの 100%を含む

⁴ ベルギー国内プライベート・バンキングの 100%を含む



その他国内市場部門（アルバル、リーシング・ソリューションズ、個人投資家部門、Nickel、ルクセンブルク国内リテールバンキング）

国内市場部門の専門的金融業務の事業活動はいずれも極めて順調でした。アルバルでは、ファイナンスフリーートの全セグメントの契約台数が当四半期に **8.7%**¹の高い伸びとなりました。リーシング・ソリューションズでは、ファイナンスリース残高が前年同期比 **3.8%**増加¹しました。個人投資家部門では、取引注文数が急増し（前年同期比**+92.5%**）、新規顧客数も特にドイツの **Consorsbank** で大きく伸び（前年同期比**+172%**）、また、運用資産残高も **2019年3月末**の水準から **1.8%**増加しました。**Nickel** はフランスで成長を維持し、**2020年3月末**時点で口座開設数が **160万**口座に迫り（前年同期比**+28.9%**）、取り扱う販売店は **5,533** 軒に上りました（前年同期比**+22.5%**）。

ルクセンブルク国内リテールバンキング（LRB）では、住宅ローンおよび法人向け貸出が順調に伸びたことから、融資残高が前年同期比 **10.2%**増加しました。預金残高は **7.7%**増でした。

これら **5** つの業務部門合計の営業収益² は当四半期に **8億4,500万**ユーロに上り、全体として前年同期比 **9.0%**増加しました。いずれの業務部門も好展開で、個人投資家部門の営業収益の伸びは極めて力強く、特にドイツの **Consorsbank** が堅調でした。

営業費用² は、当四半期は **5億800万**ユーロで前年同期比 **5.2%**増でしたが（コスト節減策で抑制しましたが、事業開発費用が嵩みました）、**3.8**ポイントの正のジョーズ効果が生み出されました。

リスク費用² は、合計 **3,800万**ユーロでした（前年同期は **3,700万**ユーロ）。

以上から、ルクセンブルク国内プライベート・バンキング業務の純利益の **3分の1** をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、これら **5** つの業務部門の税引前利益は当四半期に **2億9,300万**ユーロに達し、前年同期比 **15.9%**の大幅増益を果たしました。

¹ 連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除く

² ルクセンブルク国内プライベート・バンキングの **100%**を含む

*
* *

国際金融サービス部門

国際金融サービス部門の事業活動は全般的に好調で、融資残高は前年同期比 4.5%増加し、特にパーソナル・ファイナンスと欧州・地中海沿岸諸国部門の伸びが顕著でした。当部門への資金純流入は 92 億ユーロに上りましたが、株式市場のバリュエーション低下が運用資産に影響を及ぼしました（運用資産残高は 1 兆 380 億ユーロで、2019 年 3 月末比 3.5%減）。

国際金融サービス部門は、すべての業務/地域における事業活動の継続性確保を図っています。国際リテールバンキング業務では支店網の 90%が稼働しており、従業員の 70%がリモートワークで、そのうち 90%はフランスです（4 月 15 日現在）。現在、デジタルツールの使用を推進しており、国際リテールバンキング業務ではデジタルユーザーの顧客数が 430 万人に上っています（2019 年 3 月末比で+36.8%）。

国際金融サービス部門の営業収益は、パーソナル・ファイナンスと欧州・地中海沿岸諸国部門の力強い伸びにもかかわらず、当四半期は 40 億 5,300 万ユーロで、前年同期比 5.4%の減収でした。影響を及ぼしたのは保険部門の特定ポートフォリオの会計上のバリュエーションで、2020 年 3 月末時点の市場価値での評価が響きました（-3 億 8,400 万ユーロ）。この影響を除くと、国際金融サービス部門の営業収益は前年同期比 3.6%増でした。

営業費用は、当四半期に 27 億 6,600 万ユーロとなり、前年同期比 2.9%の増加でした。ポーランドでの税金の増加（IFRIC 21 の作用）や貸金ドリフトの影響です。ただし、この費用増はコスト節減策や事業効率向上で抑制されました。

これらを受けて、営業総利益は当四半期に 12 億 8,700 万ユーロとなり、前年同期比 19.2%減少しました。

リスク費用は 7 億 3,900 万ユーロで、前年同期に比べて 3 億 1,100 万ユーロ増加しました。この増加の主因は、医療危機の影響（2 億 2,000 万ユーロ）でした。

以上から、国際金融サービス部門の当四半期の税引前利益は 6 億 3,400 万ユーロとなり、前年同期比 50.4%の減益でした。医療危機が営業収益に及ぼした影響およびリスク費用（合計 6 億 400 万ユーロ）を除くと、減益幅は前年同期比 3.2%に留まります。

パーソナル・ファイナンス

パーソナル・ファイナンス事業は当四半期に良好な成長モメンタムを記録しました。融資残高は前年同期比 4.4%増でした（ただし、四半期終盤のロックダウン措置による販売店閉鎖の影響を受けました）。また、利鞘を堅実に維持し、与信基準を厳格化してサイクルを通してリスクプロファイルの改善も続けました。

パーソナル・ファイナンス事業は、医療危機に対応し、お客様や提携企業に一定の支援を提供しています。例えば、顧客関係管理（アフターセールスや回収）に配分するリソースを 2020 年 3 月末までに 30%拡大しました。また、先を見越した管理体制とし、顧客向けソリューションを個別に策定してモニタリングも行い、医療危機による経済的影響に対応できるようにしています（4 月 17 日現在、欧州の返済遅延は 135,000 件、総額 12 億 7,000 万ユーロ）。デジタルツールは効率的な中継機能を提供しており、当四半期の取引全体の 91.6%が自己管理で実行され、モバイルアプリのダウンロードが急増しています（2020 年 3 月に 23%増、イタリアでは 73%増）。



パーソナル・ファイナンスの営業収益は、当四半期に 14 億 7,500 万ユーロに上り、前年同期比 3.4%の増収となりました。融資残高の増加やブラジルの既存債権売却が寄与しました。

営業費用は 7 億 8,700 万ユーロとなり、前年同期比 2.3%増加しました。ただし、コスト節減策が奏功してコスト/インカム率が改善し、1.1 ポイントの正のジョーズ効果を生み出しました。

これらを受けて、営業総利益は 6 億 8,800 万ユーロとなり、前年同期比 4.8%の増益となりました。

リスク費用は、特に医療危機の影響（1 億 8,900 万ユーロ）により、前年同期比 2 億 5,300 万ユーロ増え、5 億 8,200 万ユーロとなりました。

以上から、パーソナル・ファイナンスの税引前利益は当四半期に 1 億 1,300 万ユーロとなり、前年同期比 66.7%の減益でした。医療危機がリスク費用に及ぼした影響を除くと、前年同期比 11.2%の減少でした。

欧州・地中海沿岸諸国

欧州・地中海沿岸諸国部門では事業が順調に伸びました。融資残高は前年同期比 5.0%増加¹し（特にトルコとモロッコの伸びが顕著）、リスクプロファイルも慎重に維持しました。預金残高は前年同期比 6.6%増加¹しました（特にトルコ）。当部門はいずれの地域でも医療危機に迅速かつ機敏に適応しており、支店の 85%以上を稼働しつつ、従業員の 55%がリモートワークを行っています。デジタルツールは医療危機への対処に役立っており、例えばあるアプリを用いると個人や中小企業がオンラインで資金難を訴えることが可能です（特にポーランドとトルコ）。

欧州・地中海沿岸諸国部門の営業収益²は、当四半期に 6 億 6,500 万ユーロと前年同期比 1.6%増加¹しました。トルコ、ポーランド、モロッコが好調で、特にトルコ（融資）とポーランド（融資と預金）の残高・利鞘の伸びが寄与しましたが、低金利環境の影響で一部相殺されました。

営業費用²は、とりわけトルコの賃金ドリフトの結果、4 億 9,000 万ユーロとなり、前年同期比 5.9%増加¹しました。

リスク費用²は、特に医療危機の影響により、合計 8,600 万ユーロに上り、前年同期比 12.7%増加しました。

以上から、トルコおよびポーランドの国内プライベート・バンキング業務の純利益の 3 分の 1 をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、欧州・地中海沿岸諸国部門の税引前利益は当四半期に 1 億 4,400 万ユーロとなり、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと前年同期比 12.8%減でした。なお、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を含めた場合、特にトルコリラの大幅下落により 22.4%減でした。

¹ 連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除く

² トルコおよびポーランドの国内プライベート・バンキングの 100%を含む



バンクウエスト

バンクウエストの事業活動は当四半期に拍車がかかりました。融資残高は、住宅ローンと法人向け貸出が伸びたことから、前年同期比 1.5%増加¹しました。預金残高は、顧客預金が大幅に伸び(+9.0%)²、8.5%の増加²でした。プライベート・バンキング業務の運用資産残高は 2020 年 3 月末時点で 149 億ドルに達し、2019 年 3 月末比で 4.2%増加しました。また、オンラインでの口座開設数が急増しました（前年同期比 +14.5%）。

バンクウエストチームは医療危機に積極的に対応し、お客様の支援に尽力しています。3 月末時点で支店の 99%を稼働し、また、米国連邦政府が策定した中小企業支援計画「ペイチェック・プロテクション・プログラム（PPP）」に積極的に参画しています。

営業収益³は、当四半期に 6 億 1,100 万ユーロに上り、前年同期比 7.3%の増収⁴でした。特に、利鞘の拡大（金利低下環境を踏まえ、預金金利の見直しを実施）、営業活動の活発化、および、手数料収入の増加（とりわけカードとキャッシュマネジメント）が寄与しました。

営業費用³は 4 億 6,500 万ユーロと前年同期比 5.2%増⁵でした。事業開発関連が増加したもののコスト節減策で抑制し、2.1 ポイントの正のジョーズ効果を生み出しました。

これらを受けて、営業総利益³は当四半期に 1 億 4,600 万ユーロとなり、前年同期比 14.6%の増益⁶でした。

リスク費用³は、医療危機の影響により、当四半期は 6,200 万ユーロで、前年同期に比べて 4,400 万ユーロの増加、顧客向け融資残高の 45bp 相当でした。

以上から、米国プライベート・バンキング業務の純利益の 3 分の 1 をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）に配分した後、バンクウエストの税引前利益は当四半期に 7,800 万ユーロとなりました。連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと前年同期比 22.5%の減益、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を含めた場合も減益でした。

¹ 連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除く

² 財務活動に関わる預金を除く

³ 米国プライベート・バンキングの 100%を含む

⁴ 連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと+3.4%

⁵ 連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと+1.4%

⁶ 連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと+10.1%



保険およびウェルス&アセット・マネジメント

保険およびウェルス&アセット・マネジメント部門の事業は高水準の資金純流入を記録しましたが、不利な市場動向の影響も被りました。運用資産残高¹は2020年3月末現在で1兆380億ユーロに上りましたが、2019年12月末比で3.5%減でした。この減少要因は、特に金融市場の急落に伴うバリュエーション面の不利な影響(909億ユーロ)と為替面の不利な影響(48億ユーロ)です。資金純流入は92億ユーロで、ウェルス・マネジメントでは高水準の資金純流入があり、アセット・マネジメントではマネーマーケットファンドを中心に極めて旺盛な資金純流入を記録し、Real Estate Investment Managementでも高水準の資金純流入がありました。保険部門では運用資産が小幅減少したものの、ユニットリンク保険に高水準の資金流入が見られました。

2020年3月末現在、運用資産残高¹の部門別内訳は以下の通りでした：アセット・マネジメントは4,370億ユーロ(Real Estate Investment Managementの290億ユーロを含む)、ウェルス・マネジメントは3,590億ユーロ、保険部門は2,410億ユーロ。

当部門は期初時点では資産運用・保険事業の拡大が続いていましたが、医療危機の広がりに伴い、運用事業への資金流入が欧州・アジアで減速しました。フランスではユニットリンク保険への資金流入が続き、資金流入全体の43%を占めました。

保険部門は医療危機への対応で柔軟性を高めています。例えば、フランスでは債権者保護保険の新規契約申込の処理や保険金請求に対する支払処理を簡素化し(追加書類を要請することなく申込の85%を承認)、イタリアや日本では新型コロナ関連の入院に補償延長を提供し、また、フランスで連帯基金(Solidarity Fund)に参画することにより経済活動の支援にコミットしています。

保険部門の営業収益は、当四半期に5億7,900万ユーロとなり、前年同期比33.7%の減収でした。特定のポートフォリオを時価で評価しており、相場下落に伴って一時的な会計上の影響が生じました(-3億8,400万ユーロ)。営業費用は、事業開発の推進の結果、3億9,300万ユーロとなり、前年同期比0.9%増加しました。税引前利益は1億9,700万ユーロで、前年同期比62.1%の減益でした。時価評価による一時的な会計上の影響を除くと、税引前利益は前年同期比11.8%の増益です。

ウェルス&アセット・マネジメント部門は発展・適応化計画を継続しました。ウェルス・マネジメント部門は好調で、高水準の資金純流入に加え、運用関連手数料や取引手数料(特に国際的取引)も増加しました。アセット・マネジメント部門の1~2月の事業は堅調で、当四半期は資金純流入となりました。組織の適応化を継続し、Alladinグローバル資産運用システム導入に伴うアプリ廃棄(50以上)を完了しています。不動産管理部門の事業は、医療危機による建設延期により、当四半期は低調でした。

ウェルス&アセット・マネジメント部門の営業収益は、当四半期に7億4,300万ユーロとなり、前年同期比3.0%の減収でした。この要因は、ウェルス・マネジメント部門で手数料収入が増加した一方で、アセット・マネジメント部門と不動産管理部門の営業収益が医療危機の影響を被ったことによるものです。営業費用は合計6億4,200万ユーロで、ウェルス・マネジメント部門(特にドイツ)の成長に伴って前年同期比0.2%増加しましたが、事業変革計画の効果(とりわけアセット・マネジメント部門)から恩恵を受けました。以上より、国内市場部門、トルコ、ポーランド、および米国からプライベート・バンキング業務の純利益の3分の1を配分された後、ウェルス&アセット・マネジメント部門の税引前利益は当四半期に1億200万ユーロとなり、前年同期比22.7%の減益でした。

*
* *

¹ 分配金を含む



ホールセールバンキング部門 (CIB)

CIB は力強い事業活動の恩恵を受けています。その勢いは、医療危機の広がりに伴って当四半期末に生じた異常な状況下、経済の支援に向けた強い結集によりさらに強まっています。

CIB は積極的な事業活動を維持し、お客様のため、債券/シンジケートクレジット/株式市場で資金を年初以来 1,150 億ユーロ以上調達しています。CIB は欧州・中東・アフリカ (EMEA) 地域におけるシンジケートローンとユーロ建て債の規模・市場シェアで首位に位置しています¹。

CIB の営業収益は、当四半期は 29 億 5,300 万ユーロとなり、前年同期比 1.9%の減収でした。営業収益はコーポレートバンキング部門 (+10.4%) とセキュリティーズ・サービス部門 (+11.8%) で力強い伸びを達成しましたが、グローバルマーケット部門の株式・プライムサービス業務の営業収益に厳しい一時的影響が生じました (欧州当局の 2019 年配当支払抑制勧告により -1 億 8,400 万ユーロ²)。この一時的影響を除くと、CIB の営業収益は前年同期比 4.3%の増収でした。

グローバルマーケット部門の営業収益は 13 億 600 万ユーロで、前年同期比 14.3%の減収でした。当四半期の両面の特徴は、FICC³ 業務が力強い伸びを達成したこと、および、株式・プライムサービス業務にとって欧州市場が 3 月末に受けた異常な衝撃が極めて強く作用したことです。欧州当局による 2019 年配当支払抑制勧告の一時的影響を除くと、グローバルマーケット部門の営業収益は前年同期比 2.2%の減少に留まります。市場リスクの尺度であるバリュエーション・アット・リスク (VaR。保有期間 1 日、信頼区間 99%) は、主に当四半期末の株式市場の力強い上昇を背景に上昇しました。VaR は 3,500 万ユーロで、依然穏当な水準です。

FICC³業務の営業収益は 13 億 9,200 万ユーロで、前年同期比 34.5%の大幅増収を果たしました。この増収要因は、金利業務の極めて力強い伸びに加え、為替・エマージング市場業務、クレジット業務、およびプライマリーマーケット業務の高い伸びでした。これを受け、FICC 業務は顧客取引 (特に電子プラットフォーム上の取引) の伸長に力を入れ、成長を加速しており、危機拡大後の市場流動性・債券発行の急回復による恩恵を受けています。

株式およびプライムサービス業務の営業収益は 8,700 万ユーロのマイナスでした。株式デリバティブ業務の顧客取引は高水準だったものの、欧州市場が 3 月末に急落し打撃を被りました。特に欧州当局による 2019 年配当支払抑制勧告が要因となり、ボラティリティが著しく急上昇し、ヘッジ取引の混乱につながりました。当業務は事業の多角化を続け、特にドイツ銀行から移管されるプライムブローカレッジ事業や株式電子トレーディング事業の統合に注力しており、初の顧客移管は既に達成しています。

セキュリティーズ・サービス部門の営業収益は 5 億 7,700 万ユーロで、前年同期比 11.8%の増収でした。増収に寄与した要因は、資産の期中平均残高の伸び、取引件数の急増 (期中平均で +36.9%) でした。地域別の伸びも続き、アジア太平洋地域では前年同期比 35%増、米州では同 40%増でした。カストディ業務の受託資産および管理資産残高は期中平均で前年同期比 6.3%増加しましたが、当四半期末の残高は株式市場のバリュエーションにより 2019 年 3 月末比 4.8%減でした。なお、当部門は戦略的発展を続けており、Banco Sabadell (スペイン) の受託事業買収やブラックロックとの戦略的提携 (Alladin プラットフォームで資産運用会社に統合的サービスを提供) を発表しています。

コーポレートバンキング部門の営業収益は、10 億 7,000 万ユーロに上り、前年同期比 10.4%増の力強い伸びとなりました。手数料収入の増加が寄与しました (前年同期比 +18%)。営業収益は全地域で増収を果たし、特に力強く牽引した地域は欧州で、キャピタルマーケット・プラットフォームが大きく貢献しました (前年同期比 24%増)。また、トランザクションバンキング業務 (キャッシュマネジメント、トレードファイナンス) の営業収益も、良好とは言い難い環境で世界的に底堅さを見せました。

¹ 出所: Dealogic 社。2020 年初めから 4 月 17 日までの取引。

² 企業が新たな経済環境下で自由に決定する配当抑制の影響は含まれていない

³ Fixed Income, Currencies, and Commodities (債券、通貨、コモディティ)



コーポレートバンキング部門の事業活動は、特に当四半期末に活発化しました。当部門は医療危機への対応に密接に関わり、とりわけキャピタルマーケット・プラットフォームを通じた活動となり、これにより、3月中旬以降、EMEA地域の投資適格社債の発行で50%以上に関わりました。融資残高は1,650億ユーロと前年同期比17.4%増え、3月にはクレジットラインが250億ユーロ近く利用されました。預金残高は1,550億ユーロと前年同期比14.3%増でした。当部門は欧州の社債発行で首位の地位にあり、EMEA地域のシンジケートローンでも第1位です。現在はアジア地域で地位を高めつつあり、キャッシュマネジメントとコーポレートバンキングで初めて上位5位に入っています。

CIBの営業費用は23億9,300万ユーロとなり、前年同期比2.8%減少しました。この減少には特にコスト削減策（共有プラットフォームの開発、プロセスの最適化など）が貢献しており、0.9ポイントの正のジョーズ効果を生み出しました。

これらを受けて、CIBの営業総利益は当四半期に5億6,000万ユーロに上り、前年同期比2.6%の増益でした。

CIBのリスク費用は3億6,300万ユーロに増加しました。内訳はグローバルマーケット部門が1億6,100万ユーロ、コーポレートバンキング部門が2億100万ユーロで（52bp）、主因は医療危機が信用コストやカウンターパーティリスクに及ぼした影響（2億2,500万ユーロ）でした。

以上から、CIBの税引前利益は当四半期に2億200万ユーロとなり、前年同期比60.8%の減益でした。一方、医療危機関連の影響¹を除くと18.8%の増益でした。

*
* *

コーポレート・センター

コーポレート・センターの営業収益は、当四半期は1億2,600万ユーロ、前年同期は3,700万ユーロでした。当四半期末の営業収益にはデリバティブの信用リスク再評価（債務評価調整：DVA）が7,000万ユーロ含まれています。

営業費用は1億1,400万ユーロでした。この中には、一時項目として、事業再編費用²および事業適応策関連費用³が4,500万ユーロ（前年同期は3,800万ユーロ）、IT強化費用が3,400万ユーロ含まれています。計画通り、事業改編費用は2020年度には計上されていません（前年同期は1億6,800万ユーロ）。

リスク費用は、当四半期は1,300万ユーロ、前年同期は400万ユーロでした。当四半期のリスク費用には医療危機が及ぼした影響（700万ユーロ）が含まれています。

営業外項目は、当四半期は3億8,100万ユーロの利益となりました（前年同期は6億2,300万ユーロの利益）。当四半期の営業外項目には、建物2物件の売却による譲渡益（+3億8,100万ユーロ）が含まれています。ちなみに、前年同期の営業外項目には、一時項目として、インドのSBI Life株14.3%の売却による譲渡益（+8億3,800万ユーロ）が含まれていましたが、のれんの減損損失（-3億1,800万ユーロ）で一部相殺されました。

以上から、コーポレート・センターの当四半期の税引前利益は3億9,800万ユーロでした。これに対し、前年同期は2億8,000万ユーロでした。

*
* *

¹ 欧州当局による2019年配当支払抑制勧告の一時的影響（-1億8,400万ユーロ。この額の中には企業が新たな経済環境下で自由に決定する配当抑制の影響は含まれていない）、および、医療危機が2020年度第1四半期のリスク費用に及ぼした影響（-2億2,500万ユーロ）

² 特にRaiffeisen Bank Polskaの統合および特定の事業（とりわけBNP Paribas Suisse）の中止・再編に関わる事業再編費用

³ 主にウェルス・マネジメント部門、バンクウエスト、ホールセールバンキング部門（CIB）



財務構造

当グループのバランスシートは極めて盤石です。

普通株式等 Tier 1 比率は 2020 年 3 月末現在で 12.0% となり、2019 年 12 月末の水準から低下しました。この低下の主な要因は以下の通りです。

- 内部的影響 (0bp) : 配当性向 50% を前提とした現金配当を考慮後の当四半期純利益による寄与 (および、IFRIC 21 に基づく税金・拠出金の影響を含む) (+10bp) + リスク加重資産のオーガニックな増加 (-10bp)
- 医療危機下の経済支援のためのリスク加重資産の増加 (-20bp)
- 医療危機関連: 市場リスク (-10bp)、カウンターパーティリスク (-10bp)、評価の健全性を担保するための調整 (Prudent Valuation Adjustment) による影響 (-10bp)、または、2020 年 3 月末時点の市場価格が「その他の包括利益」に及ぼす影響 (リスク加重資産の影響を除く) (-20bp)
- 2019 年度の配当金全額を剰余金勘定に配分する影響¹ (+60bp)

他の要因が普通株式等 Tier 1 比率に及ぼした影響は全体として限定的でした。

2020 年 3 月末時点の普通株式等 Tier 1 比率は、欧州中央銀行の義務付け比率 (9.31%)² を大幅に上回っています。

レバレッジ比率³ は、2020 年 3 月末現在で 3.9% でした。

即時利用可能な剰余資金は 2020 年 3 月末現在で 3,390 億ユーロに上りました。これは短期資金調達との関係で 1 年超の余裕資金があることを意味しています。

*
* *

¹ 2020 年 4 月 2 日に開催された取締役会の決定に従い、2020 年 5 月 19 日に開催される年次株主総会の承認を要する

² カウンターシクリカル・バッファ解除の発表を考慮し、資本要求指令 5 (CRD5) 第 104a 条に従い、第 2 の柱ガイダンス (P2G) を除いた比率

³ 2014 年 10 月 10 日付けの欧州委員会 (EC) 委任法令に基づき算定された比率



2020 年度の見通し

医療危機は 2020 年度のマクロ経済シナリオに抜本的な見直しを招いています。ロックダウン終了後、足元のリセッションはごく緩やかな景気回復へ移行していくと予測されますが、「正常な健康状態」への年内復帰は期待しがたく、2019 年の GDP 水準へ戻る時期は 2022 年以降とみられます。

政府・金融当局は、医療危機の影響を軽減し経済的・社会的基盤を支えるべく特別措置を講じています。BNP パリバはこうした経済的支援の取り組みに積極的に参画しています。

このため、今後、危機の影響による手数料収入の減少を純利息収入の増加で一部相殺することも考えられます。

また、当グループは期初に計画していた営業費用節減を拡大する方針ですが、リスク費用の増加で相殺される恐れもあります。

こうした状況を踏まえると、新たな危機や新たな進展が起きない限り、当グループの 2020 年度の純利益¹は 2019 年度を 15～20%程度下回る可能性があります。

*
* *

¹ 株主帰属純利益



連結損益計算書

(単位：百万ユーロ)	1Q20	1Q19	1Q20 / 1Q19	4Q19	1Q20 / 4Q19
グループ					
営業収益	10,888	11,144	-2.3%	11,333	-3.9%
営業費用および減価償却費	-8,157	-8,449	-3.5%	-8,032	+1.6%
営業総利益	2,731	2,695	+1.3%	3,301	-17.3%
リスク費用	-1,426	-769	+85.4%	-966	+47.6%
営業利益	1,305	1,926	-32.2%	2,335	-44.1%
持分法適用会社投資損益	95	134	-29.1%	129	-26.3%
その他の営業外項目	395	623	-36.6%	65	n.s.
営業外項目	490	757	-35.3%	194	n.s.
税引前利益	1,795	2,683	-33.1%	2,529	-29.0%
法人税	-411	-667	-38.4%	-582	-29.4%
少数株主帰属純利益	-102	-98	+4.1%	-98	+4.1%
株主帰属純利益	1,282	1,918	-33.2%	1,849	-30.7%
コスト/インカム率	74.9%	75.8%	-0.9 pt	70.9%	+4.0 pt

BNPパリバの2020年度第1四半期に関わる財務情報の開示は、本プレスリリースに含まれています。

法令上要求される開示情報は全て、登録書類を含めて、<http://invest.bnpparibas.com>の「Results (業績)」セクションからオンラインで入手可能であり、フランスの通貨金融法典 L. 451-1-2 条およびフランス金融市場庁 (Autorité des Marchés Financiers) の一般規則第 222-1 条以降の規定に従い、BNPパリバが公表しています。



2020 年度第 1 四半期 - コア事業別業績

		国内市場部門	国際金融サービス部門	ホールセール バンキング部門	事業部門合計	コーポレート・ センター	グループ合計
(単位：百万ユーロ)							
営業収益		3,757	4,053	2,953	10,762	126	10,888
	対前年同期比	-1.6%	-5.4%	-1.9%	-3.1%	n.s.	-2.3%
	対前四半期比	-3.4%	-7.7%	-4.8%	-5.4%	n.s.	-3.9%
営業費用および減価償却費		-2,885	-2,766	-2,393	-8,043	-114	-8,157
	対前年同期比	-0.4%	+2.9%	-2.8%	-0.1%	-71.6%	-3.5%
	対前四半期比	+12.7%	+1.9%	+7.3%	+7.2%	-78.5%	+1.6%
営業総利益		872	1,287	560	2,719	12	2,731
	対前年同期比	-5.1%	-19.2%	+2.6%	-11.1%	n.s.	+1.3%
	対前四半期比	-34.3%	-23.2%	-35.8%	-29.8%	n.s.	-17.3%
リスク費用		-311	-739	-363	-1,413	-13	-1,426
	対前年同期比	+2.2%	+72.5%	n.s.	+84.8%	n.s.	+85.4%
	対前四半期比	+23.6%	+28.8%	n.s.	+56.0%	-79.2%	+47.6%
営業利益		561	548	197	1,306	-1	1,305
	対前年同期比	-8.7%	-53.0%	-61.7%	-43.1%	-99.9%	-32.2%
	対前四半期比	-47.9%	-50.2%	-75.1%	-56.0%	-99.9%	-44.1%
持分法適用会社投資損益		0	75	3	77	18	95
その他の営業外項目		0	12	2	14	381	395
税引前利益		561	634	202	1,397	398	1,795
	対前年同期比	-8.0%	-50.4%	-60.8%	-41.9%	+42.1%	-33.1%
	対前四半期比	-48.3%	-47.2%	-74.8%	-54.7%	n.s.	-29.0%
(単位：百万ユーロ)							
営業収益		3,757	4,053	2,953	10,762	126	10,888
	前年同期	3,816	4,282	3,008	11,107	37	11,144
	前四半期	3,887	4,391	3,101	11,378	-45	11,333
営業費用および減価償却費		-2,885	-2,766	-2,393	-8,043	-114	-8,157
	前年同期	-2,897	-2,688	-2,463	-8,049	-400	-8,449
	前四半期	-2,559	-2,715	-2,229	-7,503	-529	-8,032
営業総利益		872	1,287	560	2,719	12	2,731
	前年同期	919	1,594	545	3,058	-363	2,695
	前四半期	1,328	1,675	871	3,875	-574	3,301
リスク費用		-311	-739	-363	-1,413	-13	-1,426
	前年同期	-305	-428	-32	-765	-4	-769
	前四半期	-252	-574	-80	-906	-60	-966
営業利益		561	548	197	1,306	-1	1,305
	前年同期	615	1,165	513	2,293	-367	1,926
	前四半期	1,077	1,101	791	2,969	-634	2,335
持分法適用会社投資損益		0	75	3	77	18	95
	前年同期	-6	113	2	110	24	134
	前四半期	4	107	4	115	14	129
その他の営業外項目		0	12	2	14	381	395
	前年同期	1	0	-2	0	623	623
	前四半期	4	-8	6	3	62	65
税引前利益		561	634	202	1,397	398	1,795
	前年同期	610	1,279	514	2,403	280	2,683
	前四半期	1,085	1,201	801	3,087	-558	2,529
法人税							-411
少数株主帰属純利益							-102
株主帰属純利益							1,282

連結四半期業績の推移

(単位：百万ユーロ)	1Q20	4Q19	3Q19	2Q19	1Q19
グループ					
営業収益	10,888	11,333	10,896	11,224	11,144
営業費用および減価償却費	-8,157	-8,032	-7,421	-7,435	-8,449
営業総利益	2,731	3,301	3,475	3,789	2,695
リスク費用	-1,426	-966	-847	-621	-769
営業利益	1,305	2,335	2,628	3,168	1,926
持分法適用会社投資損益	95	129	143	180	134
その他の営業外項目	395	65	34	29	623
税引前利益	1,795	2,529	2,805	3,377	2,683
法人税	-411	-582	-767	-795	-667
少数株主帰属純利益	-102	-98	-100	-114	-98
株主帰属純利益	1,282	1,849	1,938	2,468	1,918
コスト/インカム率	74.9%	70.9%	68.1%	66.2%	75.8%



(単位：百万ユーロ)	1Q20	4Q19	3Q19	2Q19	1Q19
リテール・バンキング事業およびサービス事業 PEL/CELの影響を除く					
営業収益	7,823	8,286	8,006	8,045	8,096
営業費用および減価償却費	-5,650	-5,274	-5,084	-5,002	-5,586
営業総利益	2,172	3,012	2,922	3,042	2,510
リスク費用	-1,050	-826	-765	-604	-733
営業利益	1,122	2,187	2,158	2,439	1,777
持分法適用会社投資損益	74	111	119	151	108
その他の営業外項目	12	-4	3	-27	1
税引前利益	1,208	2,294	2,280	2,563	1,886
配賦資本（十億ユーロ、年初来）	55.8	54.9	54.7	54.6	54.3

(単位：百万ユーロ)	1Q20	4Q19	3Q19	2Q19	1Q19
リテール・バンキング事業およびサービス事業					
営業収益	7,810	8,278	7,997	8,072	8,099
営業費用および減価償却費	-5,650	-5,274	-5,084	-5,002	-5,586
営業総利益	2,159	3,004	2,913	3,070	2,513
リスク費用	-1,050	-826	-765	-604	-733
営業利益	1,109	2,178	2,148	2,467	1,780
持分法適用会社投資損益	74	111	119	151	108
その他の営業外項目	12	-4	3	-27	1
税引前利益	1,195	2,286	2,270	2,591	1,889
配賦資本（十億ユーロ、年初来）	55.8	54.9	54.7	54.6	54.3

(単位：百万ユーロ)	1Q20	4Q19	3Q19	2Q19	1Q19
国内市場部門（フランス、イタリア、ベルギーおよびルクセンブルクのプライベート・バンキングの100%を含む） ¹ PEL/CELの影響を除く					
営業収益	3,913	4,036	3,892	3,925	3,961
営業費用および減価償却費	-2,970	-2,635	-2,607	-2,516	-2,983
営業総利益	943	1,402	1,285	1,408	978
リスク費用	-313	-254	-245	-214	-307
営業利益	630	1,147	1,040	1,194	671
持分法適用会社投資損益	0	4	1	2	-6
その他の営業外項目	1	4	2	-6	1
税引前利益	630	1,156	1,043	1,190	666
ウェルス&アセット・マネジメントに配分される利益	-56	-62	-67	-68	-58
国内市場部門税引前利益	574	1,093	975	1,122	608
配賦資本（十億ユーロ、年初来）	26.0	25.7	25.7	25.7	25.5

(単位：百万ユーロ)	1Q20	4Q19	3Q19	2Q19	1Q19
国内市場部門（フランス、イタリア、ベルギーおよびルクセンブルクのプライベート・バンキングの2/3を含む）					
営業収益	3,757	3,887	3,748	3,810	3,816
営業費用および減価償却費	-2,885	-2,559	-2,539	-2,443	-2,897
営業総利益	872	1,328	1,209	1,367	919
リスク費用	-311	-252	-246	-213	-305
営業利益	561	1,077	963	1,154	615
持分法適用会社投資損益	0	4	1	2	-6
その他の営業外項目	0	4	2	-6	1
税引前利益	561	1,085	966	1,149	610
配賦資本（十億ユーロ、年初来）	26.0	25.7	25.7	25.7	25.5

1. プライベート・バンキングの営業収益から税引前利益に至る表示項目の100%を含む



(単位: 百万ユーロ)	1Q20	4Q19	3Q19	2Q19	1Q19
フランス国内リテール・バンキング事業 (フランス国内プライベート・バンキングの100%を含む) ¹					
営業収益	1,511	1,560	1,558	1,624	1,597
うち受取利息純額	810	881	891	916	915
うち手数料	702	679	667	708	682
営業費用および減価償却費	-1,166	-1,152	-1,163	-1,102	-1,186
営業総利益	345	408	396	522	412
リスク費用	-101	-98	-75	-83	-72
営業利益	244	310	320	440	340
営業外項目	-1	6	0	0	1
税引前利益	244	316	320	440	340
ウェルス&アセット・マネジメントに配分される利益	-35	-32	-40	-37	-34
フランス国内リテール・バンキング税引前利益	209	283	281	402	306
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	10.6	10.1	10.0	9.9	9.8

(単位: 百万ユーロ)	1Q20	4Q19	3Q19	2Q19	1Q19
フランス国内リテール・バンキング事業 (フランス国内プライベート・バンキングの100%を含む) ¹ PEL/CELの影響を除く					
営業収益	1,524	1,569	1,568	1,596	1,595
うち受取利息純額	823	889	901	889	912
うち手数料	702	679	667	708	682
営業費用および減価償却費	-1,166	-1,152	-1,163	-1,102	-1,186
営業総利益	358	417	405	495	409
リスク費用	-101	-98	-75	-83	-72
営業利益	257	318	330	412	337
営業外項目	-1	6	0	0	1
税引前利益	257	324	330	412	338
ウェルス&アセット・マネジメントに配分される利益	-35	-32	-40	-37	-34
フランス国内リテール・バンキング税引前利益	222	292	290	374	304
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	10.6	10.1	10.0	9.9	9.8

(単位: 百万ユーロ)	1Q20	4Q19	3Q19	2Q19	1Q19
フランス国内リテール・バンキング事業 (フランス国内プライベート・バンキングの2/3を含む)					
営業収益	1,437	1,489	1,490	1,549	1,522
営業費用および減価償却費	-1,129	-1,116	-1,133	-1,065	-1,147
営業総利益	308	373	357	484	376
リスク費用	-99	-96	-77	-81	-70
営業利益	209	277	281	402	305
営業外項目	-1	6	0	0	1
税引前利益	209	283	281	402	306
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	10.6	10.1	10.0	9.9	9.8

1. プライベート・バンキングの営業収益から税引前利益に至る表示項目の100%を含む

2. PEL/CELに係る引当金に関する留意事項: 当該引当金は、フランス国内リテール・バンキング事業収益において計上されているが、住宅財形貯蓄制度 (Plans Epargne Logement: PEL) および住宅財形貯蓄口座 (Comptes Epargne Logement: CEL) から全存続期間にわたり生じるリスクを考慮している

(単位: 百万ユーロ)	1Q20	4Q19	3Q19	2Q19	1Q19
PEL-CELの影響	-13	-9	-10	28	2



(単位：百万ユーロ)	1Q20	4Q19	3Q19	2Q19	1Q19
BNLバンカ・コメルシアレ（イタリア国内プライベート・バンキングの100%を含む） ¹					
営業収益	659	755	663	684	675
営業費用および減価償却費	-465	-450	-446	-433	-470
営業総利益	194	305	217	251	205
リスク費用	-120	-109	-109	-107	-165
営業利益	74	196	108	144	40
営業外項目	0	-4	0	0	0
税引前利益	73	191	108	144	40
ウェルス&アセット・マネジメントに配分される利益	-10	-10	-10	-11	-10
BNLバンカ・コメルシアレ税引前利益	64	181	98	133	30
配賦資本（十億ユーロ、年初来）	5.3	5.3	5.3	5.3	5.3

(単位：百万ユーロ)	1Q20	4Q19	3Q19	2Q19	1Q19
BNLバンカ・コメルシアレ（イタリア国内プライベート・バンキングの2/3を含む）					
営業収益	637	732	641	663	654
営業費用および減価償却費	-453	-438	-434	-422	-460
営業総利益	184	295	207	241	195
リスク費用	-120	-109	-109	-108	-164
営業利益	64	186	98	133	30
営業外項目	0	-4	0	0	0
税引前利益	64	181	98	133	30
配賦資本（十億ユーロ、年初来）	5.3	5.3	5.3	5.3	5.3

(単位：百万ユーロ)	1Q20	4Q19	3Q19	2Q19	1Q19
ベルギー国内リテール・バンキング事業（ベルギー国内プライベート・バンキングの100%を含む） ¹					
営業収益	885	878	853	878	915
営業費用および減価償却費	-830	-560	-541	-535	-844
営業総利益	55	318	312	342	71
リスク費用	-54	-5	-20	3	-34
営業利益	0	313	292	345	37
持分法適用会社投資損益	4	6	5	5	-3
その他の営業外項目	1	2	1	-6	0
税引前利益	5	321	298	344	35
ウェルス&アセット・マネジメントに配分される利益	-10	-19	-17	-19	-14
ベルギー国内リテール・バンキング税引前利益	-4	302	281	325	21
配賦資本（十億ユーロ、年初来）	5.7	5.8	5.8	5.9	5.8

(単位：百万ユーロ)	1Q20	4Q19	3Q19	2Q19	1Q19
ベルギー国内リテール・バンキング事業（ベルギー国内プライベート・バンキングの2/3を含む）					
営業収益	842	836	813	836	868
営業費用および減価償却費	-797	-536	-519	-512	-811
営業総利益	45	300	295	323	57
リスク費用	-54	-5	-20	3	-33
営業利益	-9	294	275	326	24
持分法適用会社投資損益	4	6	5	5	-3
その他の営業外項目	1	2	1	-6	0
税引前利益	-4	302	281	325	21
配賦資本（十億ユーロ、年初来）	5.7	5.8	5.8	5.9	5.8

* プライベート・バンキングの営業収益から税引前利益に至る表示項目の100%を含む



(単位：百万ユーロ)	1Q20	4Q19	3Q19	2Q19	1Q19
ルクセンブルクを含むその他国内市場部門（ルクセンブルク国内プライベート・バンキングの100%を含む） ¹					
営業収益	845	834	807	767	776
営業費用および減価償却費	-508	-473	-457	-447	-483
営業総利益	337	362	351	320	292
リスク費用	-38	-42	-41	-27	-37
営業利益	299	320	310	293	256
持分法適用会社投資損益	-4	-2	-4	-4	-3
その他の営業外項目	0	0	1	0	0
税引前利益	295	318	307	290	253
ウェルス&アセット・マネジメントに配分される利益	-2	-1	-1	-1	0
その他国内市場部門税引前利益	293	318	306	289	253
配賦資本（十億ユーロ、年初来）	4.4	4.5	4.6	4.6	4.5

(単位：百万ユーロ)	1Q20	4Q19	3Q19	2Q19	1Q19
ルクセンブルクを含むその他国内市場部門（ルクセンブルク国内プライベート・バンキングの2/3を含む）					
営業収益	841	830	804	763	772
営業費用および減価償却費	-505	-469	-454	-444	-480
営業総利益	335	361	350	319	292
リスク費用	-38	-42	-41	-27	-37
営業利益	297	319	309	292	255
持分法適用会社投資損益	-4	-2	-4	-4	-3
その他の営業外項目	0	0	1	0	0
税引前利益	293	318	306	289	253
配賦資本（十億ユーロ、年初来）	4.4	4.5	4.6	4.6	4.5

1. プライベート・バンキングの営業収益から税引前利益に至る表示項目の100%を含む



(単位：百万ユーロ)	1Q20	4Q19	3Q19	2Q19	1Q19
国際金融サービス部門					
営業収益	4,053	4,391	4,248	4,262	4,282
営業費用および減価償却費	-2,766	-2,715	-2,545	-2,559	-2,688
営業総利益	1,287	1,675	1,704	1,703	1,594
リスク費用	-739	-574	-518	-390	-428
営業利益	548	1,101	1,186	1,313	1,165
持分法適用会社投資損益	75	107	118	149	113
その他の営業外項目	12	-8	1	-21	0
税引前利益	634	1,201	1,305	1,442	1,279
配賦資本（十億ユーロ、年初来）	29.8	29.2	29.1	28.9	28.8
パーソナル・ファイナンス					
営業収益	1,475	1,485	1,444	1,440	1,427
営業費用および減価償却費	-787	-721	-664	-702	-770
営業総利益	688	764	781	738	656
リスク費用	-582	-370	-366	-289	-329
営業利益	105	394	415	449	327
持分法適用会社投資損益	8	-9	19	17	13
その他の営業外項目	0	-11	0	-13	0
税引前利益	113	374	434	454	340
配賦資本（十億ユーロ、年初来）	8.1	7.9	8.0	7.9	7.8
欧州・地中海沿岸諸国部門（トルコ国内プライベート・バンキングの100%を含む）¹					
営業収益	665	702	657	674	665
営業費用および減価償却費	-490	-459	-439	-445	-456
営業総利益	175	243	218	230	210
リスク費用	-86	-113	-112	-97	-77
営業利益	89	129	107	132	133
持分法適用会社投資損益	55	61	44	66	53
その他の営業外項目	3	8	-1	0	0
税引前利益	147	198	150	198	186
ウェルス&アセット・マネジメントに配分される利益	-3	-1	-1	-1	-1
欧州・地中海沿岸諸国部門税引前利益	144	197	150	197	185
配賦資本（十億ユーロ、年初来）	5.3	5.3	5.3	5.3	5.3
欧州・地中海沿岸諸国部門（トルコ国内プライベート・バンキングの2/3を含む）					
営業収益	660	699	655	672	663
営業費用および減価償却費	-488	-458	-438	-444	-455
営業総利益	172	241	217	228	209
リスク費用	-86	-113	-111	-97	-77
営業利益	86	128	106	131	132
持分法適用会社投資損益	55	61	44	66	53
その他の営業外項目	3	8	-1	0	0
税引前利益	144	197	150	197	185
配賦資本（十億ユーロ、年初来）	5.3	5.3	5.3	5.3	5.3

1. プライベート・バンキングの営業収益から税引前利益に至る表示項目の100%を含む



(単位: 百万ユーロ)	1Q20	4Q19	3Q19	2Q19	1Q19
バンクウエスト (米国プライベート・バンキングの100%を含む) ¹					
営業収益	611	611	601	593	569
営業費用および減価償却費	-465	-406	-433	-431	-442
営業総利益	146	205	168	162	127
リスク費用	-62	-84	-43	-2	-18
営業利益	83	121	125	160	109
持分法適用会社投資損益	0	0	0	0	0
その他の営業外項目	0	-5	1	1	0
税引前利益	83	116	126	161	109
ウェルス&アセット・マネジメントに配分される利益	-5	-6	-7	-7	-8
バンクウエスト税引前利益	78	110	119	153	101
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	5.7	5.4	5.4	5.3	5.3
(単位: 百万ユーロ)	1Q20	4Q19	3Q19	2Q19	1Q19
バンクウエスト (米国プライベート・バンキングの2/3を含む)					
営業収益	596	595	585	576	553
営業費用および減価償却費	-455	-396	-423	-421	-433
営業総利益	141	199	161	155	119
リスク費用	-62	-84	-43	-2	-18
営業利益	78	115	118	152	101
営業外項目	0	-5	1	1	0
税引前利益	78	110	119	153	101
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	5.7	5.4	5.4	5.3	5.3
(単位: 百万ユーロ)	1Q20	4Q19	3Q19	2Q19	1Q19
保険部門					
営業収益	579	654	761	779	874
営業費用および減価償却費	-393	-380	-370	-360	-389
営業総利益	186	274	390	419	484
リスク費用	1	-1	-2	1	-2
営業利益	187	273	389	420	482
持分法適用会社投資損益	1	30	43	57	37
その他の営業外項目	9	0	0	-16	0
税引前利益	197	304	432	461	520
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	8.6	8.4	8.4	8.3	8.4
(単位: 百万ユーロ)	1Q20	4Q19	3Q19	2Q19	1Q19
ウェルス&アセット・マネジメント部門					
営業収益	743	957	803	795	766
営業費用および減価償却費	-642	-760	-649	-632	-641
営業総利益	101	197	154	163	125
リスク費用	-9	-6	4	-2	-2
営業利益	92	191	157	161	123
持分法適用会社投資損益	11	25	12	10	10
その他の営業外項目	0	-1	0	7	0
税引前利益	102	216	170	177	132
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	2.1	2.1	2.1	2.1	2.0

1. プライベート・バンキングの営業収益から税引前利益に至る表示項目の100%を含む



(単位：百万ユーロ)	1Q20	4Q19	3Q19	2Q19	1Q19
ホールセールバンキング部門					
営業収益	2,953	3,101	2,873	3,099	3,008
営業費用および減価償却費	-2,393	-2,229	-1,974	-1,997	-2,463
営業総利益	560	871	898	1,102	545
リスク費用	-363	-80	-81	-24	-32
営業利益	197	791	817	1,078	513
持分法適用会社投資損益	3	4	5	5	2
その他の営業外項目	2	6	11	-25	-2
税引前利益	202	801	834	1,058	514
配賦資本（十億ユーロ、年初来）	22.3	21.7	21.6	21.3	20.7
コーポレートバンキング部門					
営業収益	1,070	1,210	1,039	1,094	969
営業費用および減価償却費	-748	-668	-600	-607	-724
営業総利益	321	541	440	487	245
リスク費用	-201	-80	-88	-21	-35
営業利益	121	461	352	467	210
営業外項目	3	3	4	3	3
税引前利益	124	464	356	470	213
配賦資本（十億ユーロ、年初来）	13.0	12.5	12.5	12.4	12.2
グローバルマーケット部門					
営業収益	1,306	1,340	1,299	1,409	1,523
うち FICC	1,392	820	915	793	1,035
うち株式およびプライムサービス	-87	520	384	615	488
営業費用および減価償却費	-1,162	-1,117	-926	-913	-1,276
営業総利益	143	223	373	496	248
リスク費用	-161	0	4	-6	3
営業利益	-17	222	377	491	251
持分法適用会社投資損益	1	0	1	1	0
その他の営業外項目	0	6	9	-25	1
税引前利益	-17	229	387	467	252
配賦資本（十億ユーロ、年初来）	8.4	8.3	8.1	8.0	7.7
セキュリティーズ・サービス部門					
営業収益	577	551	535	596	516
営業費用および減価償却費	-482	-444	-449	-477	-463
営業総利益	95	107	86	119	53
リスク費用	-2	0	2	2	-1
営業利益	93	108	88	121	52
営業外項目	2	0	2	0	-3
税引前利益	95	108	91	121	50
配賦資本（十億ユーロ、年初来）	0.9	0.9	0.9	0.9	0.8



(単位：百万ユーロ)	1Q20	4Q19	3Q19	2Q19	1Q19
コーポレート・センター					
営業収益	126	-45	27	53	37
営業費用および減価償却費	-114	-529	-363	-436	-400
うち事業改編、再編および適応費用	-79	-420	-256	-335	-206
営業総利益	12	-574	-336	-383	-363
リスク費用	-13	-60	-1	7	-4
営業利益	-1	-634	-337	-377	-367
持分法適用会社投資損益	18	14	19	24	24
その他の営業外項目	381	62	20	81	623
税引前利益	398	-558	-299	-272	280



連結貸借対照表-2020年3月31日現在

(単位：100万ユーロ)	2020年3月31日	2019年12月31日
資産		
預金および中央銀行預け金	182,608	155,135
純損益を通じて公正価値で測定する金融資産		
トレーディング目的有価証券	199,254	131,935
貸出金および売戻契約	370,291	196,927
デリバティブ金融商品	369,561	247,287
ヘッジ目的デリバティブ	15,791	12,452
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産		
負債性金融商品	62,177	50,403
資本性金融商品	2,015	2,266
償却原価で測定する金融資産		
金融機関貸出金および債権	41,825	21,692
顧客貸出金および債権	841,099	805,777
負債性金融商品	118,096	108,454
金利リスクヘッジポートフォリオの再測定による調整	7,176	4,303
保険事業に係る金融商品	240,076	257,818
当期および繰延税金資産	6,893	6,813
未収収益およびその他の資産	167,001	113,535
持分法適用会社投資	5,750	5,952
有形固定資産および投資不動産	32,101	32,295
無形固定資産	3,768	3,852
のれん	7,794	7,817
資産合計	2,673,276	2,164,713
負債		
中央銀行預金	5,952	2,985
純損益を通じて公正価値で測定する金融負債		
トレーディング目的有価証券	93,582	65,490
預金および買戻契約	398,093	215,093
負債証券	55,421	63,758
デリバティブ金融商品	358,039	237,885
ヘッジ目的デリバティブ	16,185	14,116
償却原価で測定する金融負債		
金融機関預金	143,854	84,566
顧客預金	907,662	834,667
負債証券	167,966	157,578
劣後債	21,501	20,003
金融リスクヘッジポートフォリオの再測定による調整	7,748	3,989
当期および繰延税金負債	3,277	3,566
未払費用およびその他の負債	152,980	102,749
保険会社の責任準備金	218,472	236,937
偶発債務等引当金	9,067	9,486
負債合計	2,559,799	2,052,868
連結資本		
資本金、払込剰余金、および利益剰余金	106,785	97,135
親会社株主帰属当期純利益	1,282	8,173
資本金、払込剰余金、利益剰余金、 および親会社株主帰属当期純利益合計	108,067	105,308
資本に直接認識される資産および負債の変動	969	2,145
親会社株主資本	109,037	107,453
少数株主資本	4,440	4,392
連結資本合計	113,477	111,845
負債および連結資本合計	2,673,276	2,164,713

代替的業績指標 (Alternative Performance Measures: APM)
フランス金融市場庁 (AMF) の一般規則第 223-1 条に基づく開示

代替的業績指標	定義	使用理由
事業部門損益計算書 (P/L) (各事業部門の営業収益、営業費用、営業総利益、営業利益、税引前利益の合計)	国内市場部門、国際金融サービス部門、ホールセールバンキング事業の損益計算書の合計 (なお、国内市場部門の損益には、フランス、イタリア、ベルギーおよびルクセンブルクのプライベート・バンキングの2/3を含む) BNP パリバ・グループ損益計算書 = 事業部門 + コーポレート・センターの損益計算書の合計 グループ全体の損益計算書との関係は「コア事業別業績」の表で開示	BNP パリバ・グループの本業の業績を示す指標
2020 年度第 1 四半期の医療危機の主な影響を除く事業部門損益計算書 (P/L) (各事業部門の営業収益、営業費用、営業総利益、営業利益、税引前利益の合計)	国内市場部門、国際金融サービス部門、ホールセールバンキング事業の損益計算書を合計する際、2020 年度第 1 四半期の医療危機の主な影響を除外 (なお、国内市場部門の損益には、フランス、イタリア、ベルギーおよびルクセンブルクのプライベート・バンキングの 2/3 を含む) 2020年度第1四半期の医療危機の主な影響は、決算資料スライド「医療危機の主な3つの影響」で定義。 BNP パリバ・グループ損益計算書 = 事業部門 + コーポレート・センターの損益計算書の合計 2020 年度第 1 四半期の医療危機の主な影響 (決算資料スライド「医療危機の主な 3 つの影響」で定義) を除く形で損益計算書を合計。	BNP パリバ・グループの本業の業績を示す指標。2020 年度第 1 四半期の医療危機の主な影響を除外し、適正なビジョンを提供し、2020 年 2 月に打ち出した目標との比較を可能にする。
PEL/CEL の影響を除く損益計算書の合計 (各事業部門の営業収益、営業費用、営業総利益、営業利益、税引前利益の合計)	PEL/CEL の影響を除く損益計算書の合計 グループの調整後の損益計算書の合計は「四半期業績の推移」の表で開示	PEL/CEL口座の全存続期間にわたり発生するリスクに対する引当金変動を除く、当期の損益計算書の合計を表す指標
プライベート・バンキングの100%を含むリテール・バンキング事業の損益計算書の合計	プライベート・バンキング全体の損益を含むリテール・バンキング事業の損益計算書の合計 グループの調整後の損益計算書の合計は「四半期業績の推移」の表で開示	リテール・バンキング事業の業績を示す指標であり、プライベート・バンキングの業績の全部を含む (プライベート・バンキングは、リテール・バンキング(2/3)とウェルス・マネジメント(1/3)の共同責任のもとに置かれるが、その割合にもとづきウェルス・マネジメントに損益を配分する前の数値)
営業費用の変化 (IFRIC 21を除外後)	IFRIC 21に基づく税金・拠出金を除いた上で、営業費用の変化を算定	IFRIC 21に基づく税金・拠出金は第1四半期に通年分のほぼ全額が計上される。第1四半期の営業費用からIFRIC 21を除外し、他の四半期との比較の際の混乱を避け、営業費用の変化をとらえる指標。
コスト/インカム率	営業費用を営業収益で除した比率	銀行業務における業務の効率性を表す指標
リスク費用+期首顧客向け融資残高 (単位: bp)	リスク費用 (単位: 百万ユーロ) を期首の顧客向け融資残高で除したもの 詳細な算定方法については、決算資料に添付された「融資残高に関わるリスク費用」で開示	事業別の貸出金残高総額におけるリスクレベルの指標



代替的業績指標	定義	使用理由
不良債権カバー率	金融資産（ステージ 3）の引当金と当該資産（ステージ 3）の減損後残高との関係を表す指標。 対象となる資産は、バランスシート上およびオフバランスシートの債権を含み、受け取った担保と相殺する。顧客向けおよび金融機関向け債権には、償却原価で測定される負債および資本を通じて公正価値で測定する有価証券を含む（保険事業を除く）	不良債権に対する引当の状況を表す指標
一時項目を除く株主帰属純利益	一時項目を除いて算定された株主帰属純利益 一時項目の詳細については、決算資料に添付された「主な一時項目」で開示	多額の非経常的項目あるいは本業の業績を反映しない項目を除外した、BNPパリバ・グループの純利益を表す指標。除外される項目の主なものに、事業再編、事業適応、IT強化および事業改編費用がある
自己資本利益率（ROE）	ROEの詳細な算定方法については、決算資料に添付された「株主資本利益率」で開示（分母は株主資本 + 非累積的永久優先株）	BNPパリバ・グループの自己資本の収益力を表す指標
有形自己資本利益率（ROTE）	ROTEの詳細な算定方法については、決算資料に添付された「株主資本利益率」で開示（分母は株主資本 + 非累積的永久優先株）	BNPパリバ・グループの有形自己資本の収益力を表す指標

比較分析 — 連結範囲の変更および為替レート変動による影響の排除

連結範囲の変更による影響を排除するための方法は、買収、売却など、取引の形態に依る。その計算の根本的な目的は、期間比較可能性を確保することにある。

- 企業を買収または新設した場合、当該企業の業績は、同企業が過年度に未だ買収あるいは設立されていなかった期間に対応する分について、連結範囲の変更による影響を除く当会計年度の期間から排除する。
- 事業売却の場合、当該事業体の業績は、売却以降の期間に対応する過年度の四半期について対称的に排除する。
- 連結の会計処理方法を変更した場合、同一条件の下に調整した四半期業績に対して、2 会計年度（当期および前期）の間で存在した最も低い持分比率を適用する。

為替レート変動による影響を除いた比較分析においては、前年度の四半期（比較対象となる四半期）業績を、当四半期（分析対象となる四半期）の為替レートで修正再表示する。これらの計算は全て、会社の報告通貨を基準に行う。

注：

営業費用： 従業員給与および従業員給付制度に関わる費用、その他経費、有形固定資産の減価償却費、無形固定資産の償却費、および不動産・機械設備を含む固定資産の減損などの総額を指す。本資料全体にわたり、「営業費用」および「費用」は特に区別することなく使われている。

事業部門： 以下の 3 部門から成る：

- **国内市場部門：** フランス国内リテール・バンキング（FRB）、BNL バンカ・コメルシアレ（BNL bc）、ベルギー国内リテール・バンキング（BRB）、その他国内市場部門（アルバル、リーシング・ソリューションズ、個人投資家部門、Nickel、ルクセンブルク国内リテール・バンキング（LRB）を含む）
- **国際金融サービス部門（IFS）：** 欧州・地中海沿岸諸国部門、バンクウェスト、パーソナル・ファイナンス、保険部門、ウェルス&アセット・マネジメント（WAM）を含む。WAM には、アセット・マネジメント、ウェルス・マネジメント、および不動産管理部門が含まれる
- **ホールセールバンキング事業（CIB）：** コーポレートバンキング部門、グローバルマーケット部門、セキュリティーズ・サービス部門を含む



BNP パリバは医療危機に直ちに対応	2
第 1 四半期の事業活動は高水準だったものの未曾有の医療危機が影響	3
リテールバンキング & サービス事業	5
国内市場部門	5
国際金融サービス部門	9
ホールセールバンキング部門 (CIB)	13
コーポレート・センター	14
財務構造	15
2020 年度の見通し	16
連結損益計算書	17
2020 年度第 1 四半期 - コア事業別業績	18
連結四半期業績の推移	19
連結貸借対照表-2020 年 3 月 31 日現在	28
代替的業績指標 (Alternative Performance Measures: APM) フランス金融市場庁 (AMF) の一般規則第 223-1 条に基づく開示	29

本プレスリリースに含まれる数値は、未監査の数値です。

本プレスリリースには、将来の事象に関する現在の見解および見通しに基づいた予測的な記述が含まれています。予測的な記述には、財務上の予測や見積りおよびその基礎となる仮定、将来の事象、事業活動、商品およびサービスに関連する計画、目標および見通しに関する記述、ならびに将来の業績およびシナジーに関する記述があります。予測的な記述は将来の業績を保証するものではなく、BNP パリバとその子会社および出資先企業にまつわる固有リスク、不確実性および仮定によって左右されるものです。さらには、BNP パリバとその子会社の事業展開、銀行業界のトレンド、将来の設備投資および買収、グローバルもしくは BNP パリバの主要地域市場における経済状況の変化（世界的には特に新型コロナウイルス感染症流行関連）、市場競争ならびに規制といった要因にも左右されます。これらの事象はいずれも不確実なものであり、現在の見通しとは異なる結果と、ひいては現在の見通しとは大きく異なる業績をもたらす可能性があります。実際の業績は、予測的な記述において見積りまたは示唆されたものとは大きく異なる可能性があります。本プレスリリースに含まれるいかなる予測的な記述も本プレスリリース発行日現在の予測であり、BNP パリバは、新たな情報や将来の事象によって、予測的な記述を公に修正もしくは更新する責任を負いません。これに関連して、「監督上の検証・評価プロセス (Supervisory Review and Evaluation Process : SREP)」は欧州中央銀行 (ECB) により毎年実施されますが、BNP パリバ・グループが満たすべき所要資本比率は毎年修正される可能性があることに留意が必要です。

本プレスリリースに含まれる BNP パリバ以外の第三者に関わる情報もしくは外部の情報源から入手した情報は、その真実たることを独立に確認したものではありません。ここに記載の情報や意見に関して、表示または保証を表現あるいは示唆してはならず、またその公正性、正確性、完全性または正当性に関しては確実なものではありません。BNP パリバもしくはその代表者ともに、いかなる過失に対しても責任を負わず、また本プレスリリースあるいはその内容の使用により生ずる、もしくは本プレスリリースやここに記載の情報や資料に関連して生じる、いかなる損失に対しても責任を負いません。

表中および分析において掲載された数値は四捨五入のため、内訳の合計と総数に若干の差異が生じる場合があります。